



原田牧場

Note

Page 2

原田 希

新型コロナウィルスの予防が第一の日々。もともと業務に、牛の感染症予防、牛から人へウィルスや菌を媒介させないための衛生管理が含まれる酪農家は、よりいっそう意識を高めての生活です。外出を控える自粛生活、家族が始終顔をつき合わせているステイホームもごく日常。ストレスはありません。

唯一の不便は、学校をはじめ、地域会や婦人部、勉強会、酪農運営組織の集まりができないこと。都会のようにネット環境が整わないため、今後も手立てを考えながらになるでしょう。リモートを使った対策案をニュースで見るたび格差を感じますが、何十年もネット環境は進む気配なしでしたから、期待はできません。

給食や飲食店の休業で牛乳が余ってきている状況については、保存のきく商品に加工する対応もぎりぎりのところまでできていると聞いています。昔も、生乳に食紅をつけて捨てた、大量のバターを酪農家が買い戻した、生産を減らすため牛の体調はさておき、餌を減らさざるをえなかった、牛を淘汰した、などの苦い記憶が酪農家にはあります。わが家の食卓でも生産調整対策は一番の話題です。

3月の初め、父の十三回忌のため大阪へ帰省し、北海道に戻ったら従業員が辞めしていました。私からコロナをうつされる可能性があるから、とのことでした。ネットに出している求人には、住み込みの短期アルバイトの応募が増えました。本州で派遣の仕事がなくなりた方や留学が延期になった方、外国人の方もいました。うちも人手は必要だし、何か力になれたらと考えたものの、なにもできませんでした。牛への感染もあるかもしれない未知のウィルスから牧場と家族を守るのが今はやっと。新型コロナの解明が進み、畜産業版予防策を確立するまで、相互の助け合いは出来ないのかな。ともやもやする気持ちを押さえて求人を取り下げました。本州から2ヶ月遅れの5月に桜が咲きましたが、なんともせつない春の到来です。（北海道では、せつない=やるせないという意味でも使われます）

さて、テレワークになり家族で過ごす時間が増えて大変だと聞くようになりました。牧場は365日仕事も家庭も一緒。きげんよく暮らせるよう実践していることを書いてみたいと思います。

1. 「どうだった？」と声をかける…発信者は何も差さずにそう聞くだけ。受け手側が自由に内容を想像して答える会話法。「何が？」と聞き返すのだけはNG。時には、受け手が何について返事してるので？を発信者が当てるクイズになったり、受け手側のポロリ発言も期待できる。

お風呂の湯加減、今日の体調、仕事の進み具合、夕御飯の感想、取りたてて発するまでもない普通の返事でもちろん“いじょうぶ”。話題を探さなくても「どうだった？」と発するだけで会話がスタート。

2. 家事に疲れたら自由食にする…みんなのための食事作りをしないので、各自で作るか買つか自由にしましようの日。誰かのために作る食事はやりがいもあるけど、相手のことを考えすぎて負担になる日もあります。自分のためだけに作った食事を楽しむ日。便乗したい家族には一食 500円で販売します。牧場の家族は優しく、出したものはすべてだまつて食べてくれますが、私ひとりが大阪人で味覚の違いもあるし、自由食の日にどんなものを買ってくるか？を見ていたら、意外な好みを発見することもできる。いつだったか、牧場の父さんに1週間で一番おいしかった料理を聞いたら、「韓国のだり」と答えたのには笑ってしまいました！がんばりすぎの自分をすぐ“さま脱ぎ捨てた一言。その他、飲み会の送迎でも代行運転のタクシー代より少し安い代金をもらっていました。家事や手間の賃金換算で、戻ってくるやりがい。受け取ったお金は家族のことに使います。家族間でお金がぐるぐるしている楽しい遊び。
3. シミュレーションを楽しむ…田舎の家は玄関の鍵を閉めません。気になって仕方がない私は、悪党が入ってきたらどうするの？と問い合わせてみました。悪党というワードがおもしろかったのか、「悪党」ってどういうのよ？北斗の拳に出てくるいかにもなやつ？それともショッカー程度？と悪党の考察から始まり、家の中で隠れられる場所はどこか、撃退するための家族の配置はどのようにするか？防御装置はどこに作るのか？やっぱり階段かな、と実現可能な範囲での想像を広げます。問題点をあぶり出して、解決策を考えるやりとりを楽しく繰り広げ続けたのち、だから、施錠しましょうね！っていうオチで笑っておわるので、暮らし、経営の危機管理のひとつと考えています。マジ？そんなことある？あるかもしれないよなあ！を常に持つ。いつかの実践に備えた柔らかい脳、シミュレーションで鍛えています。

その他にも、目が合ったらニコッかニヤッとする。めちゃくちゃいそがしい時ほど、ごちそうにする（反対に記念日は照れくさいのでスルー）。血がつながらない私が代表して家族のことをほめる（肉親で長年同じ仕事をしているとほめ合わないので）。ほめたあとに別の気になってる件をちょっとダメだしし、ほめ殺しにはしない。などがあります。牧場に暮らす限りは、ずっと家族と顔を突き合わせます。サラリーマン家庭育ち、ひとり旅好きの私は苦痛に思う時もありました。が、不自由に思える生活でもちょっとの工夫でおもしろがっていきたいです。

最後に、牧場の父さん母さんに聞いてみました。 仕事も家庭もおなじ、ずーっと一緒にいられる秘けつは何ですか？ 家族と一緒に生活しかしたことがない、これが普通だから秘けつはない、とかっこよく答えてくれた父さん。その後に母さんが「無視！ややこしい時は」と発して、はっと顔を見合せたふたりの温度差には大笑い。秘けつは母さんが握っているようですね。



筆者 原田 希 ハラダ ノゾミ

1973年 大阪府吹田市生まれ

2006年 酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ移住。自身も酪農家に。

2017年 北海道農業士に認定

北海道指導農業士の夫とともに、新規就農者の支援や、
女性の農業者向けの勉強会、道外からのお嫁さんの会のお世話係を担当